

「筑後国一の宮 高良大社の自然と歴史に触れる」

日時：2023年10月20日（金） 場所：久留米市高良山

爽やかな晴天が続く中、当日だけが雨の予報で心配しましたが、小雨決行ということで実施しました。曇り空で風が肌寒かったものの、雨に降られることはなく、山の神様に感謝！です。参加者は初めての方から大ベテランの方まで24名と、講師・スタッフ3名でした。

10:30に御井町のバス停に集合後、石造大鳥居をくぐってスタートしました。途中にあるアメリカキササゲ（別名 カタルパの木）は、新島襄ゆかりの木ということで説明の看板もありますが、車道に面しておりあまり目立ちません。今回はしっかりと足を止め、下垂した細長い莢を観察し説明を聞きました。

高良大社の参道は自然石の石段が続き、段の高さが不ぞろいで滑りやすいところもあるため、皆さんそれぞれが自分のペースで登って行かれました。「馬蹄石」とよばれる岩の窪みは、これが神馬の蹄の跡と言われても???と首をかしげる方も……。高良大社下のキンメイモウソウチク（金明孟宗竹）は、節ごとに黄色と緑色の縦縞が現れており、こちらは皆さん納得でした。

三の鳥居をくぐって最後の階段を上り、12:15に高良大社に到着しました。展望台で筑後平野を眺めながら昼食をとった後、高良大社の境内では、白い花とピンク色の花をつけた十月桜や、「久留米つつじ」の原木群、樹齢400年と推定される大楠などを観察しました。

帰路は元の参道を下り、14:30に御井町バス停で解散となりました。急な参道の石段を回避して、車で下られる方もおられましたが、皆さん無事に帰ることができました。

モミジの紅葉はこれからです。もみじ狩りや春のお花見など、ぜひまた高良山においで下さい！



← 石段が続く参道（皆さん、お疲れさまでした）



↑ 「久留米つつじ」原木群



← キンメイモウソウチク林

担当：丸山（記録）・手嶋